

消火器の取り扱い方法（動画）のポイント

①オープニング

②消火器について

消火器には家庭用の物や業務用の物があり、サイズによって重量や消火薬剤の放射時間が変わるため、どのサイズを設置しているのか事前に確認が必要です。

③消火器の性能について

通常、消火器本体には性能が標記されています。多くの消火器は「普通火災」「油火災」「電気火災」に対応し、この動画内の10型消火器では、放射距離が3～6メートルで、放射時間は約15秒です。

④消火器の使用方法

消火器の使用方法についても、本体に標記されています。火の近くまで搬送し、①安全栓を引き抜き、②ホースを外して火元に向け、③レバーを強く握ってください。

⑤消火器使用時のポイント

消火薬剤は火に掛けるのではなく、燃えている物に掛けます。

放射時間が短いので、火の近くに移動し、レバーを握ります。

しっかりとホースの先端を持ちます。中にはホースの無いタイプも有ります。

燃えている物の少し手前から、ほうきで掃くように進めます。

消火薬剤がなくなったら、素早く安全な位置へ戻ります。

⑥消火器の注意点

消火器が重たい場合は、両手で搬送してください。

屋外では、自分の身を守るため可能な限り、風上から放射します。

室内では、逃げ道となる出入口を背にして、放射します。

⑦一連の流れについて

実際の火に対し、消火器を使用した初期消火の動画です。安全で迅速な初期消火が行われています。

⑧消火器の日常点検について

消火器の使用期限は過ぎていませんか。安全ピンは付いていますか。キャップはゆるんでいませんか。本体容器に錆びや変形はありませんか。ホースにひび割れ等の異常はありませんか。圧力ゲージのあるタイプは、緑色の範囲内ですか。

⑨最後に

いくら消火器を準備しても「いざ」という時に使えなければ意味がありません。消火器を設置する場所は、人目につきやすく、火を使用する部屋（場所）の近くで、邪魔にならない場所が理想です。ただし、風呂場や洗面所などの湿気の多い場所は避けましょう。

消火器で初期消火が可能なのは、「天井に火がまわるまで」と言われています。天井に火が燃え移ったら、速やかに逃げて下さい。